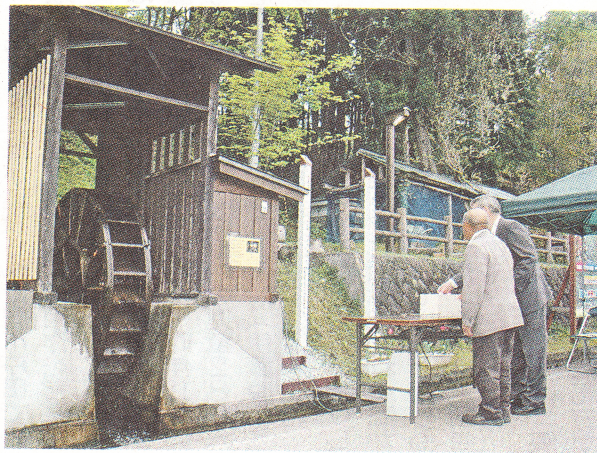


水車回しLED照明

大仙市・宿農村公園で点灯式
豊富な湧水活用し発電



大仙市は11日、大沢郷宿の宿農村公園の観光用水車に小水力発電施設を造り、点灯式を行った。市民に親しまれて蓄電。夕方に公園を訪れる人

のために毎日数時間、発光ダイオード（LED）照明1基をともす。

雄清水・雌清水の周囲には豊富な湧水があり、そのうち毎分60リットルを使って直径2メートルの水車を回す。事業費は120万円で県から60万円の補助を受けた。水車の稼働状況を見ながら今後、LED照明を1基追加し、今ある園内の街灯の電源を全て水力に切り替えることも検討している。

点灯式には、施設を管理していく宿自治会と雄清水雌清水を守る会の会員ら約30人が

笑顔を浮かべた。

最後尾で太鼓をたたいて学生たちを見守った同地区の下村一男さん（78）は「今年は若い人がたくさん参加してい

るせいか、地域の人も家の前まで出てきてくれる」とうれしそう。同大3年の佐藤奈子さん（20）は「三叉には初めて来たが自然が多くてびっく

（岡田郁美）

点灯式でスイッチを押す住民代表

出席。栗林次美市長はあいさつで「電力の大量消費を見直し、地域で電気を作り出すことを考えていく時代になった。貴重な湧水を守りながらこの発電施設を教材にしていきたい」と述べた。

（鹿川公利）